

趾皮膚炎に対する アセチルヒドロキシプロリンと 湿潤療法併用による治療効果の検討

○高橋海秀¹ 番場聡太¹ 澤松裕人¹ 永吉夢輝¹
伊藤容平¹ 加藤圭介¹ 山本哲也¹ 原知也¹
足立全¹ 岸本昌也¹ 加藤大介¹

1) (株)益田大動物診療所

(株)益田大動物診療所



はじめに

蹄病は畜産現場において**経済的損失**の大きな重大疾病
趾皮膚炎は患肢の疼痛が大きく跛行の主因となりうる疾病

○趾皮膚炎(*Digital Dermatitis*: DD)

Treponema属を中心とした細菌による感染症であり牛の蹄に
イソギンチャク状やイチゴ状といった様々な疣状病変を形成

主に蹄踵に形成されるが趾間や副蹄下部などにも形成

激しい疼痛を認め重度の牛では負重しないようなひどい跛行を認める

伝染性が強く牛群内で蔓延しやすい

○一般的な予防法・治療法

牛舎環境の改善、病原菌の除去

ex) 予防法：患部の消毒、蹄浴、牛床への消毒剤の散布

治療法：病変部の外科的除去、抗生物質の全身または局所投与
アクリノールによる洗浄



はじめに

アセチルヒドロキシプロリンとは

近年、人用化粧品や小動物用外用薬としても使われている成分

皮膚のコラーゲンに存在する**アミノ酸の一種**であるヒドロキシプロリンをアセチル化したもの

作用：**コラーゲン合成**や**細胞増殖**の促進

元来、**生体内に存在する**物質であるため
毒性がなく休薬期間もないため**安全に使用**することが可能



材料・方法

○供試牛

搾乳牛：ホルスタイン種4頭(4肢)
跛行スコア(2～4)
病状スコア(M2～M4.1)

○使用製剤

プロセーブ(あすかアニマルヘルス株式会社)
2.5%アセチルヒドロキシプロリン
防腐剤(パラベン)



材料・方法

○治療方法

①病変部および蹄の
糞泥を除去・洗浄



②病変部に
プロセーブを塗布

③ラップで病変部
を被覆



④ラップの上から
伸縮包帯で保護

1週間程度でラップを除去
治癒していなければ①～④を繰り返す

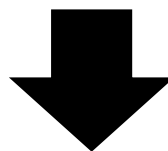


結果

○治療結果

治癒判定：跛行スコアの消失および病状スコアの低減

供試牛すべてにおいて1週間程度で
跛行スコアの消失および病状スコアの低減を認める



すべての供試牛で1週間程度で治癒
現在まで再発は認めない



結果

○症例1

処置前



1週間後



結果

○症例2

処置前



1週間後



過去の報告との比較

○永井ら(2000)

DD症例に対し、病変部の外科的切除後
抗生物質を塗布し、伸縮包帯で被覆

結果

全頭で処置後24時間以内に跛行の消失、皮膚病変の治癒が認められた
しかし、1～3カ月後には19/43頭(44.2%)に再発が認められた

○梁瀬ら(2014)

DD症例に対し、OTC可溶散とワセリンの混合物を塗布したラップで
病変部に貼り付け伸縮包帯で保護

結果

15日以内に治癒した割合は114/120(95%)
61頭中6頭(9.8%)に再発を認めた



考察

アセチルヒドロキシプロリン

繊維芽細胞の増生
表皮細胞の活性化
コラーゲン合成促進

湿潤療法

病変部角質層の自己融解促進

趾皮膚炎の早期治癒・再発抑制



考察

アセチルヒドロキシプロリン

繊維芽細胞の増生
表皮細胞の活性化
コラーゲン合成促進

湿潤療法

病変部角質層の自己融解促進

趾皮膚炎の早期治癒・再発抑制

治療におけるストレスの低減



考察

アセチルヒドロキシプロリン

繊維芽細胞の増生
表皮細胞の活性化
コラーゲン合成促進

湿潤療法

病変部角質層の自己融解促進

趾皮膚炎の早期治癒・再発抑制

治療におけるストレスの低減

農家の経済的損失を低減



考察

アセチルヒドロキシプロリン

繊維芽細胞の増生
表皮細胞の活性化
コラーゲン合成促進

湿潤療法

病変部角質層の自己融解促進

趾皮膚炎の早期治癒・再発抑制

治療におけるストレスの低減

農家の経済的損失の低減

Animal
well
Being
の達成

AMR対策

趾皮膚炎に対する有効な治療法

(株)益田大動物診療所

